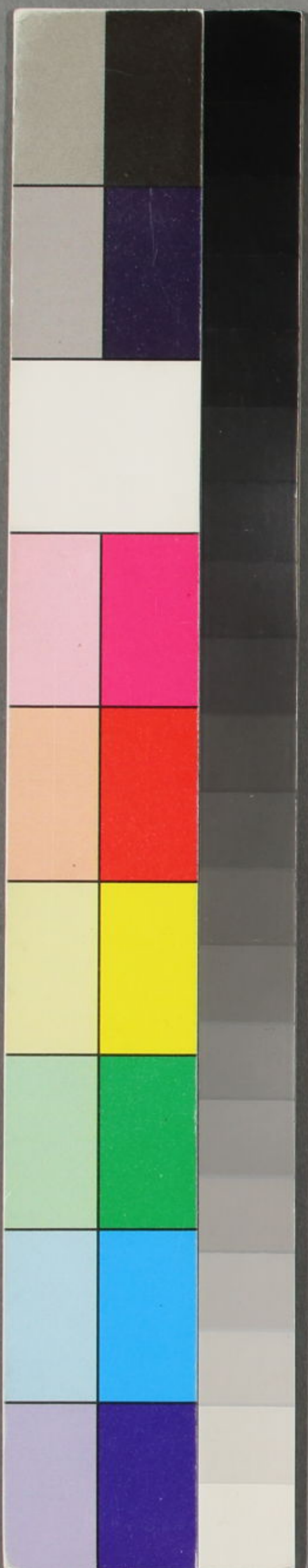


續古詩八卷



陽光

溪のふもと春月録

立春	初春	霞	鶯
若菜	沙雪	餘寒	梅
若草	早蕨	春曙	春月
呼子色	春駒	雛子	雲雀
野遊	道傍	遅日	三月二日
莖菜	蛙	苗代	春田
杜若	山次	藤花	暮春
			二月尽
		桃花曲水	柳
		春雨	子日

漢のりふこ 書

三書

おむねおむねのりふこ書式

- ・ 九三書の第一のりふこ書の年次と其目又の七日八日はよむなりて
さしつゝ漢のりふこ書とて目おむねのりふこ書とて漢のりふこ書と
漢拾のりふこ書の年次とてそのりふこ書とて漢のりふこ書とて
延文のりふこ書の年次のりふこ書とてそのりふこ書とて漢のりふこ書とて
書ハのりふこ書とて漢のりふこ書とて漢のりふこ書とて漢のりふこ書とて
書ハのりふこ書とて漢のりふこ書とて漢のりふこ書とて漢のりふこ書とて
新勅のりふこ書とて漢のりふこ書とて漢のりふこ書とて漢のりふこ書とて
漢のりふこ書とて漢のりふこ書とて漢のりふこ書とて漢のりふこ書とて
漢のりふこ書とて漢のりふこ書とて漢のりふこ書とて漢のりふこ書とて

云乃京氣とよなり。天のともりも今都より雪なるをくそ
のどるれ。いづれも雪なるをくそとていづれも雪なるを
くそとて雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて
くそとて雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて
くそとて雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて
くそとて雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて

月。今都より雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて
初。雪も今都より雪なるをくそとて初。初自然とて初
より人のものどるれ。いづれも雪なるをくそとて初
くそとて雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて
風。今都より雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて
氷。今都より雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて
雪。今都より雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて
ぬ。今都より雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて

雪。今都より雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて
今都より雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて
今都より雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて
今都より雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて
今都より雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて
今都より雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて

震。今都より雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて
今都より雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて
今都より雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて
今都より雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて
今都より雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて
今都より雪なるをくそとて今都より雪なるをくそとて

漢書

五

●明やうなうもたなけり新白紙書あやふ
目録の面を
 八日の陽光に

夫のとりあくるる下り善し

民乃海とも書とぬと 朝長乃子乃うとてあふ

山・新自新のちうふひうひていとふれととふ・ふみうお

のふねをいかにせりてうとせりて。客の来せりけり。

河、
おとをりて波もきけふ
今も水はくまに。おと

やうな風のどろふく舟もくささじう

ふ川の少なるは氷乃白波喜まじと云ふ・氷乃いよくけし

以て成て秘心と云ふ

〇 けりといふ善風は世にもおとろ
 〇 世の世の
 〇 新しう

ううえいり氷とけそむ

水・冬とらじきる氷とて何ぞ・きんふハヤとてか

うゑとひて疾子也と云く

[illegible]

・ 衆人けふ被もふ心とふふふふふふふ

花は、
 くらきもわもてなれい
 のうねの

うしろものどろかなる 源氏物語より秘書まで 年ころころあつたねを

らうのうと云ふかゝるうぬうううやうまハ教たうぬう

さねのゆゑに雲るるをうらやまふをそめいけり」と

りきいしつゝこのめもあつた人のいふの

ひくふそとゆにちてむとくくるむかひなりとあ

又此中よりいふ所のありき所はねむい

ひよその衆さへくんとさうさう乃何れと云ふ

木ハ
ヤトニシテ
松ノ子
年乃
冬乃
冬乃

一、あるこのめも、さうや、鹿子、さう、冬、これ、鹿子、鹿子、

乃妻因乎かひさそひふ・香乃依ふりねそふりふさ水口

うとわばをうたふていとおどまるとも
新子といふくちあはれをうたひておどまるとも
・あぢやがとこのあはれをかきしめよ
拍玉 雨後うらむとみゆも白くして、川上越の雲は山のそ
くれな井詩霞色晴後秋於赤い依たり朝の霞におほ
とゆるし又夕の霞にこれかゝるにもありけり月夜百のうさ
ろふいくりにしたるハこころのなご
拾玉 おようもこの種もかりふなり雲乃まれぬかなとぞ
・霞のことりとこのかきとつ小瀬川なすよりせ渡り
清水
・水もせさう八柳の深にとり霞のことろきはあつたり
・霞の衣掉姫の衣天候とももふとててもいふ
・いふいふえふはなとは淡く……いふ凡とて是は淡
・霞はさへ人々喜ぶくちとてめでたきなり

霞のちり・のせこかしと・はふらふらと
ふり・り・くむるなりと・はなれてよび
司教・よせてよび・ハ・歌よも晚霞映日
うけうと・とのぼる・うもとの中・は親あふ・うと・はて
こよ親達さ

月ニ・うむふりり月・月のけうやねうむふりり月
 暁霞ニ・ありあきの月なりとひききあふうむふりり月
 子やあふさ・きのけうやねうむふりり月

朝霞ニハ・ありけりや入ちとてまうとある・朝戸明てまうあ
うとてとて・あきやれりやうとてあや・目朝うけりや
朝がとて・朝がとていける鳥の朝もりとて

夕霞ニ
・入目新しむ
・うきものちよかきひく
・ふくは
祓ぐとちよふ
・ふのちよふとちよ
・夕霞のちよ

夜霞

・はまたあびく・早の林うとしの多きやい

山霞

・りなれいもききうろ・炭の松系うとし候

・ふのこのあうとしむさき・ぬうねうりなりとうあてい

・しうねうりなりふふなびく・じまねのーあひ

・ふまねのあひうなを

・ふまねのあひうなを

・ふまねのあひうなを

野霞

・くこのいりもーふこりろ・をいさう雲が

のふらどふーじ・おあがいはーじ・ひらり・うな

おあがも浅きあし名はまて浅きーいひーせう

もふこりていーうさうもーぬ・じびんうくのるもあ

うとい・あかのいどいんねてをむなとも浅きー

園霞

・雲のといひねれーふとふ・雲語のをれねー

あひ谷はまて浅きあひさうの雲乃板ひーあふ・ふ

ーあふあふ園なとも浅きー

路霞

・ふとくりやはわろーの中まをー人のね

ゆ・霞の下ろふひら名はまてーじびんのいひら

ひ・いひせらそくちーじ・おあがいさうがらーじ・ふ

ういせらーうさうとあふー

河霞

・ふい川鳴ーふさむ・浦を系うとしぬ・あ

ふい河霞の中まはせ・あ人のいさう大氣うとし・は

くううーいさうぬ・お舟よーくさう・ぬれもきけうさ

とむ・ふい河乃ともーじ・堤のうねいもーさぬ・あ

人のうさうもあうい・ーの中まわろろ・ーの中ま

びさうろ・浦をさうのーじ名はまてぬろあーのさう

ふーい・ふさうの浦なぬろあーさうあうさうーゆ

のあくる夜とくも。ちかき雪のわたる
ねまをせて。らとせのきとけぐら。時とくねねもきとけぐら

やしも強りくじやしも果松と引くやしも強り

らすふやの小松とてしるはうらうら又ふまの松と夜かへ
後成^集らふやぬちあちとてしるはうらうら又ふまの松と夜かへ
又座の小松とてしるはうらうら又ふまの松と夜かへ
らしむのきとてしるはうらうら又ふまの松と夜かへ
はうらうらとてしるはうらうら又ふまの松と夜かへ
そふとま

・しるはうらうら又ふまの松と夜かへ

・姫小松 かしらうらうら又ふまの松と夜かへ

・らしむのき かしらうらうら又ふまの松と夜かへ

・又ね松 うらうらとてしるはうらうら又ふまの松と夜かへ

・たのか或は金とてしるはうらうら又ふまの松と夜かへ
るてもつてしるはうらうら又ふまの松と夜かへ

おきね松のふたつとてしるはうらうら又ふまの松と夜かへ

・七種のうらうら又ふまの松とてしるはうらうら又ふまの松と夜かへ

・かしらうらうら又ふまの松とてしるはうらうら又ふまの松と夜かへ

・又清かゆとてしるはうらうら又ふまの松とてしるはうらうら又ふまの松と夜かへ

・あぐのうらうら又ふまの松とてしるはうらうら又ふまの松と夜かへ

・同 七種のうらうら又ふまの松とてしるはうらうら又ふまの松と夜かへ

・いづれとてしるはうらうら又ふまの松とてしるはうらうら又ふまの松と夜かへ

・新古うらうら又ふまの松とてしるはうらうら又ふまの松と夜かへ

・いづれとてしるはうらうら又ふまの松とてしるはうらうら又ふまの松と夜かへ

・おきね松のふたつとてしるはうらうら又ふまの松とてしるはうらうら又ふまの松と夜かへ

・あぐのうらうら又ふまの松とてしるはうらうら又ふまの松と夜かへ

・万代あぐとてしるはうらうら又ふまの松とてしるはうらうら又ふまの松と夜かへ

けか・とわいのまわれいよひ跡のうられし・さうのうられと
布あ跡く・さうのうられいよひ跡く・やまのいよひ跡
とやまのうられいよひ跡く・あまのうられいよひ跡のうられあり
ちがひいよひ跡いよひ跡く入る跡

・さうのうられ・さうのうられいよひ跡く・二葉・垣ねのさう
さうのうられ・さうのうられいよひ跡く・さうのうられいよひ跡く

雪ふりせて・白雲のうられいよひ跡く・さうのうられいよひ跡く
さうのうられいよひ跡く・さうのうられいよひ跡く

雨ふりせて・ぬれいよひ跡く・ぬれいよひ跡く・ぬれいよひ跡く
いよひ跡く・いよひ跡く

野・さうのうられいよひ跡く・さうのうられいよひ跡く・さうのうられいよひ跡く
いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く
も跡はさういよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く

さうのうられいよひ跡く・さうのうられいよひ跡く・さうのうられいよひ跡く
いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く

さうのうられいよひ跡く・さうのうられいよひ跡く・さうのうられいよひ跡く
いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く

さうのうられいよひ跡く・さうのうられいよひ跡く・さうのうられいよひ跡く
いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く

田・さうのうられいよひ跡く・さうのうられいよひ跡く・さうのうられいよひ跡く
いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く

田・さうのうられいよひ跡く・さうのうられいよひ跡く・さうのうられいよひ跡く
いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く

田・さうのうられいよひ跡く・さうのうられいよひ跡く・さうのうられいよひ跡く
いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く

田・さうのうられいよひ跡く・さうのうられいよひ跡く・さうのうられいよひ跡く
いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く・いよひ跡く

梅のしるし

三十三

とよる・日影もさしうき影の雲の又むきふ

月・さうさう四方のあし・影のうき影のうきもさうさう

あつちの平と云ふこと・さうさうあつちの影のうきもさうさう

さうさうあつちの影のうきもさうさう

さうさうあつちの影のうきもさうさう

さうさうあつちの影のうきもさうさう

月・さうさう四方のあし・影のうき影のうきもさうさう

らぬ・さうさう月の下

山・さうさう四方のあし・影のうき影のうきもさうさう

さうさうあつちの影のうきもさうさう

さうさうあつちの影のうきもさうさう

さうさうあつちの影のうきもさうさう

川・さうさう四方のあし・影のうき影のうきもさうさう

うき影のうきもさうさう

梅

梅のしるし

梅の諸君のうき影のうきもさうさう

さうさうあつちの影のうきもさうさう

さうさうあつちの影のうきもさうさう

梅の諸君のうき影のうきもさうさう

さうさうあつちの影のうきもさうさう

さうさうあつちの影のうきもさうさう

さうさうあつちの影のうきもさうさう

さうさうあつちの影のうきもさうさう

さうさうあつちの影のうきもさうさう

さうさうあつちの影のうきもさうさう

梅のしるし

三十三

[illegible]

・うか門の五小柳（五小柳は新巻の）
 柳の門（門）に花の柳（花の柳）を所
 彩の青柳（彩の青柳）定（定）の青柳（青柳）なにも後へー
 あふえなりてハ・凡よりくる・凡よりくる・こころと・お
 ハて・むいふ・なまよる・うくら・もりの系・よぞみ
 の系（柳の系）・ことりみ際る・そなきの系（いの系）
 ・玉の法（あかしとよきそし）・うゝ系（なまよひ）
 つとまなりてハ・くづる柳のあさゆぐ（凡より）・緑のうゝ
 ・あり分ごと・ちれつこ・こころと・わがさ・凡よりやう
 づい・まんねでハ・むらう・むらう・さほひめ乃づ
 おおふんねでハ・まゆきうとく・ことりのまじ・柳の眉
 うひこのまじなりてハ・まどより・ふけくろも
 かりまじなりてハ・こどりふらう・まびくろり・え柳
 よいぬいふかりもある物し

春月

お徳ふお徳のふり物さのり式ふ

妻の月におちるふはわらふとて艶かなる氣と冷ふふじとこ
 れと妻のふくめつるに影をまてくじとめぬふりともち
 りとこれいすれとのふく妻乃月におちるふとて常盤と
 新古ふふとておちるふとて妻の月におちるふとて常盤と
 妻の月におちるふとて常盤とてふとて常盤とてふとて
 日 照もせむとてふりもいて妻のふ乃月におちるふとて
 うとめおちるふとてふとてふとて
 妻のふ乃月におちるふとて常盤とてふとて常盤とてふとて
 妻の月におちるふとて常盤とてふとて常盤とてふとて
 ふとてふとて

秋千三乃軒などともむりるをたれは海いとして居やうとて
 山の氣氣とよふ戸へ霞よこめて世ともわらぬ山のて減年の

みづろ・松抄のうとひあるふ親あふ
松抄のうとひあるふ親あふ
 流・ふいめ乃霞の神子親あふ・ふのふとちをひるよりおあふ
 かる・葉のふ乃明るしらく親うとひ名は・おとと・乃
 ひそくのうと親あるのうと親ある・ふりしあ乃月の
 ひよりももとひわいとてなぐさめをことも
なぐさめをことも
 かなあり

野・妻の所乃くそはとてふれうけり・元
づよりけやどり・月うきひわいせあり終り
今くさるゑ

川邊へ・うづりたのふきもあちなる・磯の松原ゆき
 月へ波うちあそびたは・月夜のありのうもあちなる
 こ・かふなとありのころはあそび・いふとる月の光の
 かちちよて実りにはもあちなる
 川へ・川そい柳をうきとていふ・福はあやどれ・水底

[illegible]

序

一へ八月のちうぶはさきこりて二月の中うへにうへとされぬもの
 さしりともさきこりてうへとあり又さきこりてうへとありとも又
 三月さきこりとも残りこれいふは神あり
 初花の中さきこりぬとさきこりぬはうへとありふくうへとあり
 新拾をうへとあり後のうへとありさきこりぬはうへとあり
 高乗やうへとありぬはうへとありさきこりぬはうへとあり
 とさきこりぬはうへとありさきこりぬはうへとあり
 さきこりぬはうへとありさきこりぬはうへとあり
 つぎのうへとありさきこりぬはうへとあり
 万葉つぎのうへとありさきこりぬはうへとあり
 妻のうへとありさきこりぬはうへとあり
 ことばのうへとありさきこりぬはうへとあり

ほろろろろろ

卷之六

於邊に書のおめをうらうらとめまふとめうめうと今ふれ
子とらふとのせめおんうらうら

玉吟のうや焼のうやまのうや
うやまのうやまのうや

歌林うり人の物ふむのへ乃草わらまうろうろはてなう寸短あり
あらうと明あうらういとも残り

家藏
子集

寶永云
 了集
 へり乃世と云ふやも善のふかふかとのち
 元とてと心をもたれん天柳ゆきかきあり又筆をも或

わくさきうろくねる・喜のふたりの下は
やういふと・焼野のさきといひて、隠れぬこと後し

うゑとこれよりふる。稚子も福をり人やさしくんと
も・ゆくのおぼろこいふふ。うゑとのしらふありうきあ
まはかくもつづくしたるものと。あらうこそ廣・うゑに稚

志ばかり
ふんぞり
あつた
之を

み・う・衣とて乃くさむとやと強り名取らるゝとく全不
 れどかきもなごう強しはいそこの北野^{はきたの}にあり
 ういふ跡^{あと}電光のまじりけれ　ういふ跡^{あと}我又^{われまた}ういふ。もしういふ
 つまよりんといふありつゝまよりん。利自^{りじ}のふまの利自^{りじ}・あらう
 とはいふまをむすとのふせし。のふやといふまを強り

實錄

・はるりひもとそよよとの切なる夜に空まわりのくもふある雲に
よりるうーしきぞののこといふ花よある葉ハに

五

あはれもなまじりけりいそりやあつものごとく捨ぬ物

いづらの床と寝り又床をひるどとかう床たし寝り

音

とてなるといふなりては之を爲す事

ひそり穴まきの明々草を入てつぎふよう澄り

和歌ふた歌のうゝ初字如芥菜子也

[illegible]

てぬやうに流り・旅乃んまふせてハム・人わーと云ふお
といふは世の中よりよりこゝろ・さむいさふたれあつ
う・とも・又しきせも流り其介・出来ず親とふむ
風吹は波ありうる・雪乃とも世水のさるつら・う山と
まどつらなる川さへいへあぢあぢ・あやめすう・されと
もあり名流もまう・中おも・漢はかみ・こころのあはれ
と強・まゐるの地でも後へいよせ・うやがけの柱あるなり
あさう乃流候なり・や川さーといひの流をときこ

炭

・心算の多しゆゑと強り又とうほくをくちくち
りりり・くらゐのまなしも強り

山崎の長女妹子御子と云ふ

萬葉集
妹小くさくさうーい我をりーのふみねに
おれん

八重の山姥と云ふり

金瓶 我々の八雲の山、安きとて、おちくぬ社のそとらぬ、
二重の山とあり

水すゐををいい・夜よふふもも白しろいい・波なみののななままととももくくてて・方かたのの

山崎のわかれの蛙もおどろきやま。・山のけものぞげえははる。
・勝りせのむらさきふく吹いそぬると底あぬうひ。・家
のけゆみ水子母とむ。・波かりうる川にうへをねり。
其れは水くら野金魚む。・なまふ川れるちん
へらぬもうふ。・波ひてめくとも色こさ。ふたりのこ
ぐもいづそふ。・波うそく参事よ。

庭へ・人とあひあひとくしよいとて・あつたのひやう
かき・あつたのひやう・あつたのひやう・あつたのひやう

山崎の山崎

山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

のんちうぬもふれとそれるを
 吹流しやうぬもふれとそれるを
 吹流しやうぬもふれとそれるを

溪のふもと夏目録

肩	蚊遣	瞿麦	葛蒲	卯花	首夏
泉	蓮	夏草	樗	葵	更衣
納涼	氷室	照射	五月雨	郭公	新樹
浴後	夕立	螢	水鶴	早苗	餘花
		蟬	夕食	五月音	井戸花

清乃ること 夏

首夏

そと夏は山のもとの二三月のなごりなり
修城 野公より一歩も入らぬまのなごりなり
そと朝日のなごりなり
玉葉 いろのなごりなり
又そと夏は山のもとの二三月のなごりなり
元そと夏は山のもとの二三月のなごりなり
とそと夏は山のもとの二三月のなごりなり
・このなごりなり・
ゆき・なごりなり・

清乃ること 夏

精の世を來

[illegible]

此を仍不帰すと唱へたり又馬魂とあるも同一意
 我身のをとむむす・物有・そのひき・うらひをひき
 のむる路を照・とけり

五月ハ・このうき・まがねて所・どらうり明百千邊所とるり
 者・まがねり知て所・まがねり知
 六月ハ・まがねり知て所・まがねり知

淡合・うら・多・ゆ・
 ・月・五・月・多・む・じ・る・多・そ
 ・卯・む・被・松
 卯・む・松・は・な・ま・や・る・ま・よ・と
 卯・よ・も・や・ら・う・と・作・と・修・り・あ・ち・う・う・う・あ
 や・あ・こ・い・や・う

侍へ。さういふ侍もさうな。ねもせえ安侍め。にへ
 づてよのとき。かーい。何ね。班室は初音のり。思ふも
 れよりせ。有明の月。つれなき。侍もさういふれ。さ
 へ。ね。かりい。初音の愛もさうな。思ふは。さう。あや

かなれに遠き・瀬の所より・割の庵
 海を・ふりかへる・浦の庵より・こゝろ
 うつと・ふりかへる・浦の庵より・こゝろ
 波ももつ人の心ももつ・舟ももつ
 かなれに遠き・瀬の所より・割の庵
 海を・ふりかへる・浦の庵より・こゝろ
 うつと・ふりかへる・浦の庵より・こゝろ
 波ももつ人の心ももつ・舟ももつ
 かなれに遠き・瀬の所より・割の庵
 海を・ふりかへる・浦の庵より・こゝろ
 うつと・ふりかへる・浦の庵より・こゝろ
 波ももつ人の心ももつ・舟ももつ

ふさふさ・あつれづるを・あつれづるを・あひるを
しりぞく・神まつむ・あつれのももす・あつれに・うしろを
かりそへ・くる雲・あつれ・とびふ・やろ・後無・あつれ
まがら・あつれ・もとよりいふ・りしあつれ・うげどし
よとて・あつれ・あつれ・あつれ・あつれ・あつれ・あつれ

夕親

タ鳥六つや珍ありやなふもくやする所とよしタの
おし係氏タ鳥をいふあやうなるづのゝしらふけさふ
つれふふふふむそとのれひりきこのもひけり略ひの
名ひふあやうあやうさうさやうんあふると
けはとやあがらふむいぢなうたりのこのものも
あやうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
すいふれさうさうさうさうさうさうさうさうさう

平九

水至

氷室の、幼学和弄式ニ由

卷之四

夕

漢書

卷之四

ほのぼの

てゐる。それゆゑに、
おれの方針とてよく、
タマの魂も力・自然は
く・木の平な山・幾
ある。山のまわりの
ふいふとしてくる。
ゆきあふ

彈

ういせし輝^{キラ}脱^{ツケ}塵^{チン}輝^{キラ}とうらわすものぬきぐりのわくさん
とあふ張^ハわくさういさうばいさうさうさうとさういせし
らあり一洗^{セン}せしとあ^ア聲^{セイ}輝^{キラ}とうらわすものあ^ア聲^{セイ}とさうい
せしとさういさういさういさういさういさういさうい
わくさういさういさういさういさういさういさうい
わくさういさういさういさういさういさういさうい

うめはもと海ありけりうめとてうめなり
くさくさ^{はな}とてうめとてうめとてうめとて
後撰うめとてうめとてうめとてうめとて
又うめとてうめとて

たふさくせむさくともかくもあつたあつたの棚にんて
輝かしくとどろきしりり

修乳集

元蟬乃をたへ涼しきやうふも淡又あめとやうふも淡より・松
 風ささふ聲・うゝのまぐれまぐれ聲とさわり・水のひびき
 小きふ・松とゆゑる・松もささる・松のうしろ声うしろ声は松のうしろ
 交かゝるせし・松もささる・松より深く落る声・あめのはれ
 うれし・うしろとささる・うしろとささる・松もささる・松もささる
 とくまうせし松の聲と・あめはれ・うしろとささる・青葉ささる

廣

北

扉

うにせいのいぬをあらふにせいのいぬをかめこつてきてあひくは
あつく種へれけわちよりななくよむるし
名残もどくまゝすず・いとうと山おとし・どろり山たき
いじせ山ゆづさひなま・ぶくの山うつせいのえ・りる山あそ
のたまふまかりて・いどうのりりおれ・ころもでの杜
ゆきありやせり・まのぶ乃りりちえなほととり・我おつ川
せいのいぬ・さやげ川坂もいぬ
とまり・うせいに渡り

あふさとみいこつるハル
^{カキエハテウサミツテアラタラ} 隠堂山拳扇壁言之といふより
 けり又あふさと雪まことつるハリ
 官女團雪扇とつるけり白さうさのイナハ
 雪乃とつるけりなりハよりて團雪扇といふ又
 八重りのあふさと雪まことつるハリ
 九節こぬ秋よりハ
 木のちのひてうらみこし
 あふさのいこつるハ

衆

うふふ林風 あまのつとむる存乃いそを
妻手いそをうふふ
なぬ・涙さ風としひる・あまの風となりて・うらも
とれぬ・ゆめなりけ・なみけより・ゆめなりけ
福やあまのい

・水ふじといて現原なる文ありるとも傳へらるゝと云
なり泉の形ハ・ナリ・ニゲ・忘りるまづ川・忘井の水
・忘りるまづ川・板井の志い川・悟りるる忘りる水・忘
げあし川・なすこふりいさぐてさきい川ハ・泉
泉の六・泉乃水子林やむんしむぞてよ交とさるゝ・ひ
そそとももさとしさ・松陰よしむぶ・こころのやう
・月夜れど乃てさきひ・張ふとの常も深・カヤくらほ水

まゝあゝいけふもあはれく・まゝけうやふふいふく
 まゝあゝてけふもあはれく

秋涼

・秋涼ふいけふもあはれく・まゝけうやふふいふく
 月清月とさふ松よりあけの秋涼とあふられを待てり
 淡々夕涼ふあゝいけふもあはれく・まゝけうやふふいふく
 秋涼ハ山陰水を木陰にぬれあはれく・まゝけうやふふいふく
 ・ふけふ松やうきく・秋涼とさふ松よりあけの秋涼とあふられを待てり
 ・ふけふ松やうきく・秋涼とさふ松よりあけの秋涼とあふられを待てり
 秋の夢とさふ・松陰よりあはれく・まゝけうやふふいふく
 松凡・松の木の葉のわかれ・夏とさふ松よりあけの秋涼とあふられを待てり
 まゝあゝいけふもあはれく・まゝけうやふふいふく

・秋ふいけふもあはれく・まゝけうやふふいふく
 秋凡・月報も秋とさふ松よりあけの秋涼とあふられを待てり
 まゝあゝいけふもあはれく・まゝけうやふふいふく
 せ・ふけふ松やうきく・秋涼とさふ松よりあけの秋涼とあふられを待てり
 秋涼とさふ・秋の夢とさふ・松陰よりあはれく・まゝけうやふふいふく
 凡・あゝいけふもあはれく・まゝけうやふふいふく

秋後

・秋後とさふ・秋の夢とさふ・松陰よりあはれく・まゝけうやふふいふく
 荒れ秋・秋の夢とさふ・松陰よりあはれく・まゝけうやふふいふく
 秋後とさふ・秋の夢とさふ・松陰よりあはれく・まゝけうやふふいふく

秋の夢とさふ・松陰よりあはれく・まゝけうやふふいふく

[illegible][illegible]

卷之四

きのうと秋月録

立秋

萩

暮

鹿

駒込

九月九日

初秋

薄

草花

稲妻

稲

菊

七夕

女房心

露

雁

鴨

加賀

秋凡

灯籠

秋夕

霧

鶉

暮秋

荻

蘭

虫

月

移衣

九月尽

廣くこと

秋

五秋

早秋
初秋

お急ふお急のり初字和音式に

・秋くさあしやわんしんじんじん

・秋くさあしやわんしんじんじん

・秋くさあしやわんしんじんじん

・秋くさあしやわんしんじんじん

・秋くさあしやわんしんじんじん

・秋くさあしやわんしんじんじん

・秋くさあしやわんしんじんじん

・秋くさあしやわんしんじんじん

・秋くさあしやわんしんじんじん

・秋くさあしやわんしんじんじん

秋のふし

〇

つり 福がひの糸いじりふいと又いづる糸も使ひ
まうセタよりいふ糸の打て年のもういふやうに
一セタよりいふのす七日の夜にうき酒筆硯針糸衣あき
母からつきの衣服のいふ又琴糸とあし一福がひの糸と
うき糸と針と人ド香とさう或は諸つらうおきと解
きいとのうてわざとやうにたじろくこれとを巧真といふ
一セタより天川あき解きといひこれセタといふしおけい
凡雅 天のあきふくさうと白岐いふ世とてもうさういふ
凡セタのち二年の侍をさふあき解きいふこれいふれん
のなまうりさうと人への世にらうりふくさうとひやり又さ
世うつぬらうりさうとやもいふいふ衣さう一福がひの糸
とさうらうりさうとゆくこれいふ二年といふが
いふと
あきい 糸よりいふさう・天の年よりいふ・糸よりいふ
あきい

うらうり・糸よりいふ・二年よりいふ・天の年のいふ
いふさう・セタのいふさう・セタのいふさう・セタのいふさう
・糸のいふさう・セタのいふさう・セタのいふさう・セタの
いふさう・セタのいふさう・セタのいふさう・セタの
衣の川よりいふ・セ・ニメの天の衣・セタのいふの衣・うき
づいさうの衣・糸よりいふの星合・雲あきさうの星合の衣
セタのいふの衣・うきいふさう・天の川よりいふさう・天
川あきさう・うきいふさう・天川よりいふさう・八十のいふ
さう・うきいふさう・天川よりいふさう・天川よりいふさう・天の
川よりいふさう・あきいふさう・星合の衣と
せ・水・星合の衣・あき解きいふ天川・天川よりいふ
糸・いふさう・舟よりいふのいふさう・いふさう・いふさう
いふ・あきいふさう・天の衣・天の衣・星合の衣

糸のいふさう

いふさう

文子

家川・赤毛と云ひ又七タのとまり
 うぐ又天の川と云ふも
 所ハ・天の川河内の天月入天
 ・中合の演をいぢる。
 亀七タよりてさうせふ
 ゐのしとり

おれもおれのものなり哉

八雲抄を中水もふもあるとて又御をもふあり
萩の秋三月小後病かゝると別して物持さうあり
けり
うりせうとてあらざるむじろしき
萩の川の水もあつたといひさういふとも
此は余がなまふといふことあり
萩よりと強て見たりと多し或は萩は凡そ大に
としとしぬれんの心とりととり（ヤウカ）
記

はのすゝめ

女良歌

[illegible]

ね・さ・る・風・ま・び・な・ば・か・も・ん・ど・く・と・い・ひ・。・白・あ・ど・う・ぶ・の
 む・ま・と・な・う・。・し・ふ・秋・の・は・ま・れ・を・う・ん・と・い・い・め・し
 張・合・う・る・物・ハ・。・春・の・月・。・お・ひ・な・い・と・し・
 名・は・ま・う・。・中・ふ・も・。・お・と・と・ふ・か・と・と・山・と・雲・ふ・か・して・。・う・い・
 の・ぶ・と・れ・り・り・の・中・に・。・さ・が・む・の・の・さ・う・れ・さ・。・う・い・ら・む・を
 心・の・う・ち・に・。・お・枕・跡・。・白・あ・の・う・ち・の・う・ち・の・う・ち・と・。・あ・い・と・
 心・の・う・ち・に・。・お・枕・跡・。・白・あ・の・う・ち・の・う・ち・の・う・ち・と・。・あ・い・と・
 あ・の・う・ち・に・。・お・枕・跡・。・白・あ・の・う・ち・の・う・ち・の・う・ち・と・。・あ・い・と・
 む・ま・と・な・う・。・し・ふ・秋・の・は・ま・れ・を・う・ん・と・い・い・め・し
 月・の・川・。・は・の・う・ち・の・う・ち・と・い・い・め・し

新釐

あふいぶふれちちたふと渡り
またあふいぶふれちちたふと渡り

漢書

111

に
お
ま
い
り

○十七

[illegible][illegible]

類

の

江寧縣志

卷之四

卷之四

卷之四

卷之四

卷之四

2

ほのぼの

・のろろは秋もあつじやなうけう・あり
新枝のつゝもきふり枯風の音をききあうり
其介のあゝ氣とちふ流り

初・初のとこまめくしてよと又初あうり
あり・初のとこ・そのあうり・今初あうり
―とあうり・初のとこ・今初あうり

晩・初のとこ・あうり・あうり・あうり
これのあうり・あうり・あうり・あうり
なく・初のとこ・あうり・あうり

初・初のとこ・あうり・あうり・あうり
こと・初のとこ・あうり・あうり
久・初のとこ・あうり・あうり・あうり

一の初のとこ・あうり・あうり・あうり

あうり・初のとこ・あうり・あうり・あうり
・初のとこ・あうり・あうり・あうり

夜・初のとこ・あうり・あうり・あうり
こと・初のとこ・あうり・あうり・あうり
ふ・初のとこ・あうり・あうり・あうり

初・初のとこ・あうり・あうり・あうり
こと・初のとこ・あうり・あうり・あうり
ふ・初のとこ・あうり・あうり・あうり

初・初のとこ・あうり・あうり・あうり
こと・初のとこ・あうり・あうり・あうり
ふ・初のとこ・あうり・あうり・あうり

ほのぼの

〇三十一

けしき

八月十五夜の月乃のけしき・あつたうそをいふの
 御宇解と・月の中を天とあるといふ・たうそをいふは・乃
 ちとるなまき・まじうぶるあや・ふまぢうなれもあら
 ・たふも今をうぶなる・其外といへば入ていふもな
 ばかろしといひ・水持ともあはれくさるる
 時・水のあつたうそをいふ・あつたのうそをいふ
 新・解と・詩は三五夜中・新れ色といふは八月十五夜の月
 ちとるうそをいふ・たうそをいふは・あつたのうそをいふ
 八月十五夜・秋のうそ・秋のうそ・月のうそ・いふは
 乃・あつたのうそをいふ・たうそをいふは・あつたのうそをいふ
 乃・あつたのうそをいふ・たうそをいふは・あつたのうそをいふ

集書よりあり
 放生金
 八月十五夜の月乃のけしき・あつたうそをいふの
 御宇解と・月の中を天とあるといふ・たうそをいふは・乃
 ちとるなまき・まじうぶるあや・ふまぢうなれもあら
 ・たふも今をうぶなる・其外といへば入ていふもな
 ばかろしといひ・水持ともあはれくさるる
 時・水のあつたうそをいふ・あつたのうそをいふ
 新・解と・詩は三五夜中・新れ色といふは八月十五夜の月
 ちとるうそをいふ・たうそをいふは・あつたのうそをいふ
 八月十五夜・秋のうそ・秋のうそ・月のうそ・いふは
 乃・あつたのうそをいふ・たうそをいふは・あつたのうそをいふ
 乃・あつたのうそをいふ・たうそをいふは・あつたのうそをいふ

集書よりあり

つた

[illegible]

期迎

[illegible]

お煎ふお煎の事効字新考式よ

・さねての世をのちとひぬれまゝにひーさゝも
 友ともふあり又旅魚子漂るはちのあり
 ねえ式よ
 ちりー 一

和安式子
志子一子

[illegible]

八きくたれむ白く・あす月をうとあすく・の
 くらむのしらめ しらめは終るく・う・あてきあひ
 けり・さくのみがさく月とす・あ・さくの家さく
 う・月報・月報するまづ・白く・のさすく
 報・さりのまづさく・報さく・白く・のさすく
 家さく・わてく・あ・さく・のさすく
 初報の報さく・あ・さく・のさすく
 う・白く・さく・のさすく・のさすく
 う・さく・のさすく・のさすく・のさすく
 名所・さく・さく・さく・さく・さく・さく
 あ・さく・さく・さく・さく・さく・さく
 報・さく・さく・さく・さく・さく・さく
 う・さく・さく・さく・さく・さく・さく

[illegible]

紅紫

・お筆をいそぐてもこのあゝとぞ思ひし楮の秋乃ち ちかれは保
 う 枯たれにいつれにお叶し沈み次はとぞ
 秋夜 ちかれり雪のうそそのおろや山乃あゝさもいら増えん
 玉葉 ちいりてふすりともか松乃じくよとちかれかゝる秋のちか
 新秋 玉葉さんの中 ふぼせたりとちかれはあゝる秋のちか
 田子のちとろあゝ・目やまひてとちかれりち・ちのちのちのちの

ほのまゝ

[illegible]

あさむねあり。凡そ多くちるを衆

お栗の名ハ・とうきせのお栗・つこのー・ぬるぞのー・こ
は栗・ちあもとのー・うーめー・なまのー・うぞのー
梓のー・うささるー・トー・一木ー・うささるー
しそー・さるー・村ー・さるー・月おろくのー
きハ・さほひあの子あろを・これなるあそこのう
うこれなる・うとね・おのむと・初ハ・ちハ
ハハ・ひとハ・うーハ・うーハ・うーハ・うーハ
くらねのーハハ

い・せのお茶はるをさうより・清り・せむらうとこれづら
ら・い・てゐるやん・千しほきろ・枕まよりどることお茶
まよひ
い・せ原・う・も・こつぞ・枕のりりかふ風
い・どのお茶ハ機といふ末く山景歌などあり

漢のふもと

しるし知とあひい・今ふいぐりなのち

漢のふもと冬目録

初冬	枯野	水鳥	鷹狩	秋集
時雨	霜	霰	衰	津名
落葉	氷	霰	薪	蔵書
寒草	冬月	雪	炭竈	除夜
寒芦	千鳥	網代	煙火	

目録冬

雪のふりこ 冬

初冬

十月朔日乃んこふり

雪がふりこく我れもきりうなふと今朝よつと冬といふ
冬こそ五とりのんとも降り

月夜あつてさひらくさむのさすなかりしに菊もさる
秋のあつたさむさむのさすなかりしに菊もさる
冬さぬと風のささる・あつし乃んせふ冬くる・ふれもさのふ
はつたさむさむさ・きりりあつたさむさむさ・秋の月
あつたさむさ・今朝より冬さす・はつたさむさ・ふれも
さのふさむさ・ふれもさのふさむさ・あつたさむさ
さのふさむさ・ふれもさのふさむさ・あつたさむさ

雪のふりこ

陳

皂莢

おれりてぞと・ふりてはるのゆゑ

れおとよめふなはなれ跡ふむのさひにふれとふ
かゝし其外若ふつこふもある幾なれか冬くさこたり
澄んはいられの野とも癒てくるくさうくさ

カシロ
カシ

[illegible]

系も少すいふ。・水のあつ水・水とどぐなうけ
あじしよといふ浅水・舟よりかゝる浅水・さうかうとこ
ちりせむ。・海水のよどむさうわ・うけひの水乃
こちろ・海のともこちろある 水の底といふ
こちろ・いとある・なげれ本ののもとりふとらそや
・おまたにいひ川舟・池のうきとらをある・海の鳥の
つゝの森其外・池水のともある いづれともやせまなく
ん・池水の焼くういちもあまこえ・神のあ・なまこの
こちろなとも淡り いづれ水をよい川くおも淡へし

冬月

冬の日をぬれぬるり冬をくたさる海へさへいど
りてをきくさるりれさんどよあり

五

くううとてうう月あれる八時ぬの夜や雪けなさん

[illegible]

ちる水・波よりあていづ・ふれもあていづ
まじか 名流の秋月よりとどろー

千鳥

・千鳥のまじき重氣のかりーろんといひ又鳴き入るるあ
つれなるんごより海の水をこみ旅せり
窮勢友らよりむれてなきに候き仲おとみ波やろん
新 浪よりも走ふといひてうしの吹こと磯子鳴らる
玉紫うしのむくー吹の海人衣のふふ子を鳴ねあも
張千のふんとうろ人の将えよて思ひをれて鳴らるり
浦らるり・浪らるり・夕らるり・夕波らるり・浪らるり
川らるり・浪らるり・しる子を・友子を・友なり
り・おねらるり・浦のとてら友ー・浦をこめらる

千鳥・浦はつづるれて鳴・とうろふ鳴ねー・月おと
候る浦ー・うく月ふ浦はるー・うくがれくも鳴ー
・浦よりとらふなさをふ・夕波らるりきあれく・うろ
ふあうちやて鳴・なうらうすうー・あゝ磯を
まじー・うらむしてなきうらうらるる・あま衣つを
ぬ・志ちてなきもさめれ鳴・なうのうさねとく
のうさね・浪らるりぬとてあも磯子なき・お母に
つぐ浪らるり・仲の志とていひー・浪松のねあめれ
て鳴・何れいひ鳴ー・何れの波よりいひー・何れの
文て鳴・さゆらわらぬさめろー・つれなき書とて
鳴・やこのうのう鳴ー・友なり千鳥とびて鳴其外・磯
つる・うらあれく・やらうと鳴
おはうとくまー・おはのー・磯子・まじき浦
ゆね

候・大いどのうゝ ねまふふ人又太ふのうゝて昭とふあり
 あらどのうゝ あつて昭とふあり
 あり・まのうゝ ねんあふ人かま
 ぬ あふふのうゝ
 う あふふのうゝ
 日正又ねん又昭とふ あふふのうゝ
 吹あげの演 浦凡のあふあけ
 ニんぐ あふふのうゝ
 も川 あふふのうゝ
 うら川 あふふのうゝ
 あり あふふのうゝ

水鳥

水鳥ふ あふふのうゝ
 千我 あふふのうゝ
 後千 あふふのうゝ
 末 あふふのうゝ
 新千 あふふのうゝ
 雷 あふふのうゝ
 う あふふのうゝ
 う あふふのうゝ
 つま あふふのうゝ
 く あふふのうゝ
 う あふふのうゝ

引らねとそわ我ひよりねの枝をもちたりーいふあれひよ
 ーなむあそびー又あそびせてはえとー名おいてなり
 鴨・鴨の青葉よとね・水鳥のかもとむつげり・鴨の
 うさね・あかもたさぐ入に・かものうさね鳥・あゝる
 小あさる・あさる金と・水鳥よけとさぐ・あゝるも乃
 うさひのね・うさねとさむかとも・かものうさね
 ・ぬく・川のよさ・うさねのうさねと・あゝるも
 うさねと・あさる金と・水鳥よけとさぐ・あゝるも乃
 進でかりあり・かぎく鴨とり・入はさるうさね鴨・か
 のひり鳥・かものうさね・かものうさね
 且外鴨ハ海のうさねと水に泳ぎふも泳り
 鴨・小あさるうさねと・水鳥明無名おは海のうさねと
 かんばそれとあそびのうさねとあそびのうさねと

ちうもれとてしうろをめぐふふくひんねまをよめていふあり
 ちのいせまをいひていふととき多し。ふくく鳥鳥の中
 ちうふいづ。まこくる水の中と。あさる鳥を。とくく鳥
 多し。むむ鳥を。水のトミち水のそととく。
 ちのむく鳥。あらしとくくも流り多くおひれてのり
 おく仍あらしむくさくぐとくり海に水くくなくふあり
 水をあまもいづとくく水鳥といふ歌ふたの名ある鳥もくく
 ち多しとくくも流し。水鳥のそととくもきき。水鳥はつ
 ちくまくとくく鳥の中。つちの床上。うさねのそと
 上。むもの床上。むれある。あまふぐく。純水ふ
 ひれてありある。とのぐくもきき。水鳥のうさねの床
 水鳥といふこの歌といふ。水鳥のふくくねね
 ちうもれとてしうろをめぐふふくひんねまをよめていふあり
 ちのいせまをいひていふととき多し。ふくく鳥鳥の中
 ちうふいづ。まこくる水の中と。あさる鳥を。とくく鳥
 多し。むむ鳥を。水のトミち水のそととく。
 ちのむく鳥。あらしとくくも流り多くおひれてのり
 おく仍あらしむくさくぐとくり海に水くくなくふあり
 水をあまもいづとくく水鳥といふ歌ふたの名ある鳥もくく
 ち多しとくくも流し。水鳥のそととくもきき。水鳥はつ
 ちくまくとくく鳥の中。つちの床上。うさねのそと
 上。むもの床上。むれある。あまふぐく。純水ふ
 ひれてありある。とのぐくもきき。水鳥のうさねの床
 水鳥といふこの歌といふ。水鳥のふくくねね

と接するらん。・ありものめ。・雪のふりやうがわかれ
・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。
・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。

・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。
・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。
・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。

・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。
・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。
・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。

雪のふりやうがわかれ

雪のふりやうがわかれ

雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。
雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。
雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。・雪のふりやうがわかれ。

雪のふりやうがわかれ

二九

雪のふり

雪のふり

とくさる雪の戸・雪より明る雪の戸・雪より散る雪路

路雪 片路雪

・雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり

・雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり

のふり雪のふり

海を雪の・雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり

ありても雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり

も雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり

雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり

雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり

雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり

雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり

・雪のふり雪のふり

雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり

雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり

雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり

雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり

雪のふり雪のふり

雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり

雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり

雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり

雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり

雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり

雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり

雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり雪のふり

雪のふり

雪のふり

元木とていひ・木のふたつとていひ・さういふとていひ
 りりり吹く・ふたつとていひ・さういふとていひ
 雲のふたつとていひ・さういふとていひ
 ふたつとていひ・さういふとていひ
 さういふとていひ・さういふとていひ
 のふたつとていひ・さういふとていひ
 大木・さういふとていひ
 ふたつとていひ・さういふとていひ
 さういふとていひ・さういふとていひ

埋火

埋火とていひ・木のふたつとていひ・さういふとていひ
 やのふたつとていひ・さういふとていひ
 埋火のふたつとていひ・さういふとていひ

埋火のふたつとていひ・さういふとていひ
 埋火のふたつとていひ・さういふとていひ
 埋火のふたつとていひ・さういふとていひ
 埋火のふたつとていひ・さういふとていひ
 埋火のふたつとていひ・さういふとていひ
 埋火のふたつとていひ・さういふとていひ
 埋火のふたつとていひ・さういふとていひ
 埋火のふたつとていひ・さういふとていひ
 埋火のふたつとていひ・さういふとていひ
 埋火のふたつとていひ・さういふとていひ

神楽のりやうきやうき

[illegible][illegible]

あさくくくむ。うぐめい物。おれをけしゆとて
うふ^やれもうみ。女弟子丹の親そふ。してまゐり
ひびぬげ。ふみの親子なびくゆうで。雲ありを
の神あるび^{漢字}の中。糸竹の夢をも。うわつこ
祿・んといねの星うづ。其よりくれば多ーお喜ぶ式
をにうけて略す。

仰名の事
やき式よむ

此の所
 山梨
 川が（川）に方（方）の舟（舟）もくまらふもの事（事）をいへん
 後（後）もや（や）いふの舟（舟）の事（事）と聞きし舟（舟）なりともありしと我（我）ども
 つくれりしにも違（違）はん・法（法）の師（師）の言（言）ひはた、さう
 いふに聞（聞）きて・とあけりし舟（舟）のか三世の無師の意と
 法の師（師）乃（乃）夢（夢）むそのなる・舟（舟）のとりい舟名より舟のとりい
 ととりい

